

暮らしで実感、木の魅力。

棟梁くん一家

ちびっ子^{りょう}棟梁^{どう}の！ 大工^{だいこう}し^しち^ちが^がう^うぞ^ぞ！



お兄さん
ギターに熱中する
シンガー志望の高校生

ちびっ子棟梁

木工が得意の小学生
お父さんみたいな立派な
棟梁になるのが夢



お父さん
木のいろんな良さを
知っている生粋の棟梁



お姉さん
デパートのスティックに
魅惑する美人OL



お母さん
ときどきと家事をこなす
スーパーママ

CONTENTS

- 【第一話】  木の内装自動車 P1
- 【第二話】  木の消臭靴 P2
- 【第三話】  木の床の電車 P3
- 【第四話】  木のライフステージ P4
- 【第五話】  超ロング軒 (のき) P5
- 【第六話】  二階建てウッドデッキ P6

木の内装自動車



漫画にちなんだ

実例レポート ①

やすらぎを誘うふるさとの木の香り。
“学び”と“集い”の喜びを地域の住民へ。

河津町立「文化の家」

〒413-0512 静岡県賀茂郡河津町笹原78-4

TEL (0558) 34-1117 FAX (0558) 34-0295

<http://www.bunkanoie.town.kawazu.shizuoka.jp/>



トップライトとむくり屋根がユニークな外観。

地元の木を使い、地元の木造技術で完成。

漫画の第一話は、木の調湿効果を取り上げています。棟梁くんのように、自動車の内装をすべて木材にしてしまうわけにはいきませんが、そんな調湿効果をはじめとする木の魅力を活かした施設があります。それは伊豆の天城にある河津町立「文化の家」。町有林の木材を使い、地元の木造の技術で建てられたこの施設は、建物全体が木の香りに包まれているかのよう。図書館を中心に、生涯学習室や教育委員会事務局をそなえ、子供からお年寄りまで、町民の身近な生涯学習の場として利用されています。

心が洗われるような木の空間が迎えてくれる。

エントランスを入れば、ふるさとの木の香りが迎えてくれます。天井まで伸びる樹木のような丸柱、木の風合いが美しい天井や床、天井のトップライトから木漏れ日のようにふりそそぐ陽光……。「これが本当に図書館!」と誰もが驚いてしまうほど、気分がすがすがしくなります。そう、ここはまさに“本の森”。自然のやすらぎに包まれながら、学ぶ喜びを体験できる場所なのです。「木の温もりが感じられる」、「落ち着いて読書が楽しめる」、そんな魅力に引かれて、今日もたくさんの人たちが訪れています。



たくさんの丸柱や、木の架構が美しい開架書庫。

木の調湿作用は、本にとってもよい環境を生む。

木をふんだんに使っていること、それは本にとってもよい環境をつくってくれます。漫画でも取りあげているように、木は湿度が高いと水分を吸収し、逆に乾燥が進むと水分を吐きだしてくれる働きがあります。この調湿性は、長い梅雨や冬という乾季のある日本の気候にあって、たくさんの本を長期間、保管する図書館にとってプラスに働くもの。人にとっても、本にとってもやさしい「文化の家」は、地域住民の“学び”と“集い”を育む豊かな森を思わせます。



エントランスを入れば、木肌が輝く光のホールが広がる。



ザーザー……
ザーザー……



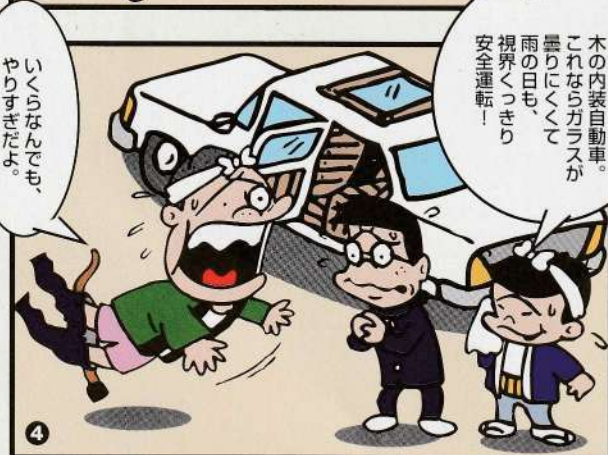
うちは、室内に
木を使ってる
からな。

雨の日でも、
うちの窓ガラスって
曇らないね。
こんな日は、
電車やバスに乗れば
メガネも曇る
くらいなのよ。

ふーん。
木ってエアコン
みたいだなあ。



それなら、
そんな木の
メリットを
活かして。



いくらなんでも、
やりすぎだよ。

はい、
木の内装自動車。
これならガラスが
曇りにくくて
雨の日も、
視界がクリア
安全運転!

木の消臭靴



ちびっ子・林間の
大いしちゃうぞ!

【第二話】



漫画にちなんだ

実例レポート ②

森林の知識をいっぱいポケットにつめこんで、さあ、屋外のフィールド探検に出発!

静岡県立森林公園「バードピア浜北」

〒432-0002 静岡県浜松市尾野2597-7

TEL (053) 583-0443 FAX (053) 583-2700

<http://www.shinrinkouen.com/birdpia/>

人と自然との共生をかなえるエコロジックな施設。

漫画の第二話は木の消臭や殺菌効果のお話です。主にテルペン類が成分となっている木の香りは、フィトンチッドとも呼ばれ、消臭や殺菌効果のほかにも、人間の心身をリフレッシュする働きがあります。そんな木の神秘にふれることができるのが、静岡県立森林公園にある「バードピア浜北」。青空に伸びる天然のアカマツ林、百種類以上の野鳥のさえずり、四季折々の植物群、そんな周囲の豊かな自然と調和する木造施設です。地元天竜川流域のスギやヒノキを使い、屋根の緑化、雨水の利用、ソーラーシステム、ユニバーサルデザインなど、人にやさしく環境に配慮した設備も取り入れられています。



周囲の自然と調和する芝張りの屋根と木の外壁



アカマツの森に向かって迫り出した観望テラス



屋根に設置された太陽光発電のパネル



集合広場のダイナミックな木組みの屋根

多彩なゾーン展開で森林の魅力を余すところなく紹介。

木の温もりにあふれる施設の中は、フィールドでの自然観察に役立つ情報ゾーン、鳥の鳴き声、木の香り、マイクロスコープなどで森の一日が体験できるゾーン、来場者が写した写真や絵画を展示するゾーンなどに分かれ、森林の魅力をさまざまな角度から知ることができます。また、アカマツ林へと開かれた屋外のテラスに出れば、バードウォッチングのやり方を実地体験することもできます。都会の子供たちにも、ぜひ、この施設で森林の素晴らしさを教えてあげたいもの。きっと、つぶらな瞳がキラキラと輝きはじめることでしょう。

四季を通じて、親子で参加できる催しもの。

周囲に広がる森林だけでなく、「バードピア浜北」では、その建物内にまで木が放つフィトンチッドが満ちています。「木の香りがしていいね」、「気分がすがすがしくなるよ」、「冬にさわっても木は温かいんだ」と、口々に話す来場者は、木に包まれてとても癒された様子。館内の常設展示のほかにも、野鳥観察と巣箱づくり、親子昆虫教室、シイタケ栽培、炭焼き体験、オリエンタリング大会など、年間を通じて楽しいイベントを開催。自然のフィールドを舞台に都会では味わえない森林の魅力を伝えています。



木の床の電車



漫画にちなんだ

実例レポート ③

積み重ねた日々があるから、豊かな時間が送れる。
年輪を重ねた木がそんなことを教えてくれる。

特別養護老人ホーム「竜爪園」

〒420-0903 静岡市葵区長尾89-1

TEL (054) 265-3838 FAX (054) 265-1350

<http://www.love.or.jp/>

社会福祉法人天心会 理事長 安池倫成 メール:m@yasuike.jp

特別養護老人ホーム、その木造化の可能性を拓く。

漫画の第三話は、人間の負担をやわらげてくれる木の働きです。それを考える上で、お年寄りの木に対する感じ方はとても大切なことです。そこで、全国でも珍しい木造の特別養護老人ホーム「竜爪園」を紹介します。施設の増築を計画した「竜爪園」に、大阪の建築家北村陸夫氏が設計プロポーザルで提案したのは、「木造平屋建・中庭付」「施設から生活の場へ」といったコンセプトのものでした。事業開始当時の平成14年、木造の特別養護老人ホームは全国に事例がなく、1年目は行政側で不採択となったものの、「大規模建築物の木造化を考える」というシンポジウムまで開いて、2年目に再度行政に事業申請を木造で提出しました。その情熱が実を結び、平成17年3月に全国で2例目の木造の特別養護老人ホームを完成させることができました。

地産地消や森林育成のために、県産材を利用。

社会福祉法人は地元へ根ざす必要があるという考えから、地元の材木をできるだけ使おうと、今回の増築で木材総使用量の約70%を静岡県産材で調達しています。静岡の木材関係の多くの皆さんの力で良質かつ大量の県産材を短期間に集めることができたということ。これは一般住宅で約30棟分の材木量となっており、できあがった空間には、静岡で育ち、地元の気候風土に合った木がお年寄りを見守りつつ生き続けています。今までは、鉄筋コンクリート造りの病院的な施設がほとんどでしたが、古来から日本人が慣れ親しんできた温もりのある空間に仕上がっています。このように木材が使われて、伐採地には新たな木が植林される、そんな緑の循環が森林環境保護にもつながります。



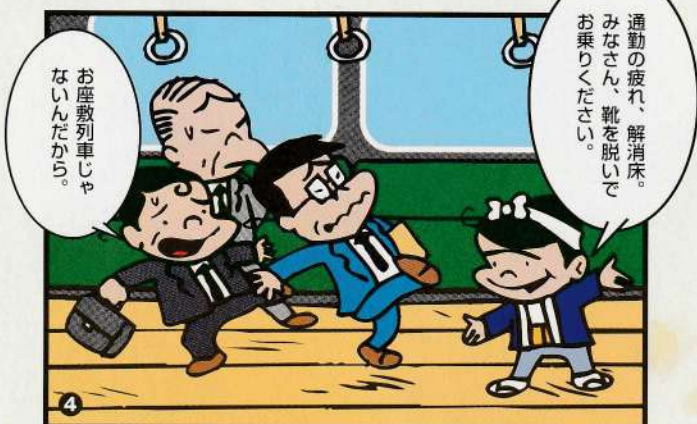
施設の周囲には緑豊かな山並みが広がる。

木に見守られて、いつまでも元気に幸せに。

「さわった感じがとても温かくてやさしい」「木の風合いに心が安らいでくる」と入居者の評判も上々。くわえて入居者のご家族の訪問も大変多いとのこと。これは家庭の延長としての特別養護老人ホームにとって、本当にうれしい状況だそうです。そして、静岡といえば家具生産も有名で、地元の家具屋さん数社から購入した彩りある家具が、木の空間づくりに一役かっています。施設内にはお年寄りの明るい談笑の音があちこち響き、とても明るい雰囲気でした。



入居者の明るい笑い声が絶えない共同室



木のライフステージ

ちびっ子棟梁の
大工しんちゃん！

【第四話】



漫画にちなんだ

事例レポート ④

楽器を生んだ木の母なる響き。
ナチュラルな音色が観客席を包みこむ。

浜松市天竜「壬生(みぶ)ホール」

〒431-3314 静岡県浜松市二俣町二俣20-2
TEL (0539) 22-3301(受付) FAX (0539) 22-3302
http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/lifeindex/enjoy/culture_art/tenryu_mibu/index.htm

森林都市宣言を謳いあげる木のホール

漫画の第四話は木の音響効果についてです。棟梁くんのように“地下道に木のステージ”とはいかないまでも、木の音楽ホールとして市民に親しまれている施設を紹介します。それが浜松市天竜「壬生(みぶ)ホール」。天竜スギで名高い地域の森林資源を活用し、人にやさしく環境にもやさしい、そんな次世代の文化活動を担うために建設されました。施設の名称は市民公募により、旧地名である「壬生(みぶ)」に決定。森林都市宣言をした天竜らしく、地元の良質な木材が最大限に活かされています。



ホール(右)とギャラリー棟(左)が夜景に映える。



ヒノキのリブ(部材)を巡らせた壁と、スギ材の椅子。



ガラス張りの壁から明るい光が差し込むギャラリー棟。

ヒノキの壁材とスギの客席の美しいハーモニー

施設は、木の切り株を思わせる楕円形のホール棟とシャープなラインのギャラリー棟から構成されています。507席のホール棟に入ると、木をふんだんに使った空間の美しさに目を奪われます。壁は高い天井までヒノキの部材が張りめぐらされ、まるで深い森の木々に抱かれているような印象。このステージはコンサート形式とプロセニウム形式※1に切り替えることができ、演目に合わせた演出が楽しめます。また、ホールに隣接したギャラリー棟には、会議室や展示ギャラリー、音楽やダンスのリハーサル室、屋外ステージなどが完備され、市民に開かれたスペースとして、さまざまな文化活動をサポートしています。

木が鳴っているようなまろやかな響き

著名なピアニストをはじめ、「壬生(みぶ)ホール」に立った演奏家からは「ホール内装のヒノキの壁に音が反響しあい、アコースティックな音色が醸し出せる」という声が多く聞かれます。きっと木ならではの音響効果が、他のホールとは一味違うまろやかな音色を生みだしているのでしょう。客席に目をやれば天竜スギを使った椅子が並び、「木の香りや温もりを感じながらコンサートが楽しめる」と観客たちも満足そう。ホールに響くナチュラルな音色が、これからの多くの人に夢や感動を与えてくれることでしょう。

※1 舞台前迫持(せりもち)のこと。舞台と客席を分ける領域と呼ばれる部分。





漫画にちなんだ
実例レポート ⑤

室内に満ちる木の温もり、屋外に仰ぐ緑の山並み。
ここに住めば、誰もが春野町を好きになる。

平木団地

〈所在地〉〒437-0604 静岡県浜松市春野町宮川289-1
〈問い合わせ先〉浜松市春野総合事務所 建設課 TEL (0539) 83-0007



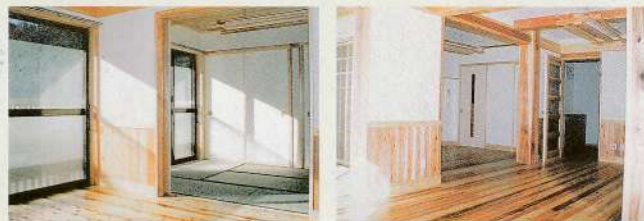
木のデッキを雨から守る深い軒とヒサシ。

和の意匠を取り入れた木造軸組の三階建団地。

漫画の第五話を読むと、四季に根ざした日本家屋の魅力というものがあります。最近では、洋式の家が多くなりましたが、木造軸組という在来工法で、しかも三階建てという集合住宅が浜松市春野町にあります。それが「平木団地」です。建設に当たっては、春野町への定住促進と、当地の基幹産業である林業の活性化を図るという目的がありました。そのために、良質で豊富な地元の春野材を使い、設計や施工も地元の手による地域主導で建てられました。深い軒やヒサシ、木をふんだんに使ったウッドデッキやバルコニーなど、和の住まいの面影を残す味わい深いものに仕上がっています。

木と暮らすことで家族の気持ちがなごんでくる。

床や腰壁、柱やハリに、春野産のスギやヒノキを使った室内は、和風の一軒家の趣があり、つい、ここが集合住宅であることを忘れてしまいます。また、火を使わないオール電化の設備や、一部の居室ではフラットフロアなどのユニバーサルデザインを取り入れて、使いやすさや安全面にも配慮をくわえています。入居者の感想も「木を使っているので、冬は温かく、夏は涼しく感じられる」、「部屋に入ると、とてもリラックスできる」など、木の良さを肌で実感している様子。建物の手前には子供たちのよい遊び場となるファミリー広場が広がり、木のデッキに出れば、山間の澄んだ空気に包まれます。



開放的な大きなサッシ戸から陽がふりそそぐ。

木の床や腰板、柱やハリにも木を使った室内。

この団地を出てからも、きっと木の家に住みたくなる。

一階は子供がいるファミリー向けの2LDK、二階と三階は単身者や2人世帯に適した1LDKの間取りで、入居者への便宜を図っています。将来、マイホームを建てることになる人たちに木の魅力を伝えていくことは、とても素晴らしい試み。ここに入居すれば自然素材のやさしさを幼い子供たちにもふれさせることができます。一人でも多くの方に木のよさを実感してもらいたいと、平木団地を管理する浜松市春野総合事務所では、「興味のある方は、気軽にお問い合わせください」とのことでした。

二階建てウッドデッキ

ちびっ子建築の
大いしちゃうぞ!

【第六話】



漫画にちなんだ

実例レポート ⑥

ウッディデザインの屋外施設には、
子供を夢中にさせる木の楽しさがある。

静岡市立日本平動物園「オートチェア駅舎」

〒422-8005 静岡市駿河区池田1767-6

TEL (054) 262-3251 FAX (054) 262-3489

<http://www.nhdzoo.jp/>

大地に生える木だからこそ、屋外の施設で使いたい。

漫画の第六話には、ウッドデッキという屋外施設が登場します。しっかりと防水、防腐処理を施せば、木は屋外でも使うことが可能なのです。そのいい例が静岡市立日本平動物園にある「オートチェア駅舎」。既存施設の老朽化をきっかけに、静岡市では地域産木材を使った新しい施設づくりに着手。山の登り口に山麓駅舎、頂上に山頂駅舎、そして二つの駅舎をむすぶオートチェアとローラーライダーが完成しました。木材を可能な限り活用したこれらの施設は、周辺の緑にも調和し、これからの屋外施設の普及に役立つものになるでしょう。



手前が山麓駅舎で、オートチェアの先に見えるのが山頂駅舎。



園内の遊歩道から木組みの中の階段を上がって山麓駅舎へ。



床一面がウッドデッキの山麓駅舎のオートチェア乗り場

駅舎の屋根を支えるハリ、外壁、歩道のデッキにも木の施工が。設計者によると、山麓駅舎は「天空の城ラピュタ」のように森に浮かぶ楕円形のUFOをイメージし、一方、山頂駅舎は頂上にある「は虫類館」への入口となるため、別世界へのわくわくする穴ぐらをイメージしたとのこと。その言葉どおり、二つの駅舎の屋根はアーチ状の曲線を描き、それを木組みで支えるユニークなデザイン。さらに、外壁や歩道のデッキにも防水処理された木材が使われていて、おとぎ話の中から抜け出してきたようなたたずまい。緑の木々をぬって昇るオートチェアに乗れば、静岡市街を一望する爽快感が味わえます。

木のステーションから、わくわく自然ワールドへ。

施設に木を取り入れたこともあって、来場者からは「コンクリートの施設より、温かみがある」「冬にさわってもヒンヤリしない」「風合いが落ち着いていて、陽差しがまぶしさをやわらげてくれる」など、熱を伝えにくい木の断熱性や、紫外線を吸収する木の持ち味を上手く引き出しています。ファンタジックな駅舎とオートチェアは、遠くからでも目立ち、山の斜面を昇るオートチェアに乗りたいために、山頂の「は虫類館」を見学する家族も多いとのこと。園内の動物たちのほかに、子供たちの楽しみをまた一つ広げる施設が生まれたといえます。





ねん木れん

企画 静岡県木材協同組合連合会
発行

〒420-8801 静岡市葵区追手町9番6号 県庁西館9階
TEL.054-252-3168 FAX.054-251-3483
e-mail: s-mokuren@mail.wbs.ne.jp
http://www2.wbs.ne.jp/~smokuren

※本資料の無断転載を禁じます。